

各位

上場会社名	サコス株式会社
代表者	代表取締役社長 瀬尾 伸一
(コード番号)	9641)
問合せ先責任者	取締役本社部門管掌 石川 忠
(TEL)	03-3442-3900)

平成22年9月期業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成21年11月13日付当社「平成21年9月期決算短信」において発表いたしました平成22年9月期(平成21年10月1日～平成22年9月30日)の業績予想及び期末配当予想を下記の通り修正いたします。

記

● 業績予想の修正について

平成22年9月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年10月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,500	331	307	292	3.33
今回発表予想(B)	11,691	55	47	4	0.50
増減額(B-A)	△808	△276	△259	△288	
増減率(%)	△6.5	△83.2	△84.4	△98.6	
(ご参考)前期実績 (平成21年9月期)	11,888	26	31	△1,120	12.77

平成22年9月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年10月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,000	324	300	288	3.28
今回発表予想(B)	11,247	55	45	2	0.30
増減額(B-A)	△752	△268	△254	△285	
増減率(%)	△6.3	△83.0	△84.7	△99.1	
(ご参考)前期実績 (平成21年9月期)	11,864	33	1	△1,132	△12.91

修正の理由

当第3、第4四半期における我が国の経済状況は政府による一連の景気刺激策が一定の効果を示し、更に不況から立ち直りの早さを見せる新興諸国の活況に後押しされる形で穏やかな「回復局面」となりましたが、当社および連結小会社の関連する建設業界においては一部に明るさも見えてきたもののまだまだ厳しさも残っており、更に公共投資の削減傾向が明確になったことで厳しい状況が継続をしています。

大手のゼネコンにおいても軒並み受注減となる中、建機レンタル業界では全体のパイの縮小にともなう競争激化が進みレンタル単価の下落が著しいものとなっています。

このような状況の中、当社は関東、中部、関西の三大都市圏に拘ったエリア戦略と得意分野とする鉄道工事、プロジェクト土木工事へ注力し、それにおいては成果を残すことができましたが、前述の厳しい外的要因を覆すまでには至らず、対前年において改善する成果は残せたものの売上高の減少とレンタル単価下落を主要因とする回収率の低下から前回予想に対して大幅に営業利益・経常利益が下回る見込みとなりました。

また、連結子会社である新光電舎においては受注工事の谷間ということもあり連結業績への寄与をすることができませんでした。

● 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成21年11月13日発表)	—	0.00	—	1.00	1.00
今回修正予想	—	—	—	0.30	0.30
当期実績	—	0.00	—		
前期(平成21年9月期)実績	—	0.00	—	0.00	0.00

修正の理由

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付けております。配当につきましても、期末業績に応じた利益還元を進めていくことを基本方針とし、前回予想では、年間配当金について、1株当たり1円00銭と発表しておりました。しかしながら、今回の業績予想の修正の通り、非常に厳しい結果となり、誠に遺憾ながら0円30銭に減額させていただきたいと存じます。

※業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき予測したものであり、リスクや不確定要素が含まれております。従いまして、当社グループを取巻く経済情勢、市場動向、競合状況等により実際の業績が記載の金額の予想数値と大幅に異なる可能性がありますのでご承知おき下さい。

以 上